



リ 5  
8465  
2





特  
8465  
2



西人モウル獄中書

文化九年六月但馬守府之命持来同八日

六月日本書在信州海防司月島伊豆守殿但馬守

直上

モウル為身之儀了字者換之至五款為信守書

小笠原伊勢守

荒尾但馬守

大日本帝王之法皇初前至夕十三日工卜口下不傷可之  
四子行而小笠原伊勢守松尾虎但馬守









とる新飯のちを待りしるゝちを係のめかゝりしと満り  
りり後をとり扱ひゆく何事とも是迄下りた事より也

一 秋は是迄西南國より戦ひ事やうと申上ト口の上は仕合や  
西南國より所屬の島より俄に精進且は後人りは月世度  
り事治り有りたる月世度中り此島より戦ひたりは後人仕合  
は手紙送りたる月食料と進言は被是平好止り也  
此の四條を遊ん俄に附有り人留りて此の西に合有り若ら何  
も治る向は危しやれは其より西に戦ひたり若ら自れは心  
事他人と治る有りし心持も建て事仕合の事也  
此の終り筆を事打しは此の戦ひは事治る事也

此の戦ひ又一人を合戦の心持も治る事也

上レサノフ口

上レサノフ口の若長候の御扱ツレサノウト

此の中はけいふ事ありは思ひやる決仕合上レサノフ

この御扱

強て其係候よりして度来多西里取り此の事も治る事也  
この事も治る事也此の御扱の事も治る事也  
此の御扱の事も治る事也此の御扱の事も治る事也  
又ホーシトフ御扱の御扱の事も治る事也  
是より他人の御扱の御扱の事も治る事也







我々の心は憂鬱なる所は彼人の任事か之を  
為し作後には我々の一人の海客なり任事か之を  
之後か之者か之通か之通か之通か之通か之通か  
は此の自問か考か能か能か能か能か能か能か  
多し之は之の事か日か日か日か日か日か日か  
多し之は之の事か日か日か日か日か日か日か  
事か之は之の事か日か日か日か日か日か日か  
心合は

一 此の通は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は

今く之と上と通は此の所は此の所は此の所は此の所は  
川は之なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり  
之は之なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は

一 此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は  
此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は此の所は









四日修(日)常(日)持(日)任(日)以(日)取(日)物(日)一(日)候(日)也(日)了(日)一(日)と(日)云(日)れ(日)  
唯(日)流(日)丸(日)を(日)西(日)を(日)り(日)り(日)と(日)云(日)は(日)日(日)

若(日)流(日)丸(日)を(日)り(日)中(日)と(日)し(日)て(日)子(日)被(日)ふ(日)所(日)候(日)武(日)兵(日)ふ(日)り(日)等(日)  
流(日)丸(日)と(日)日(日)本(日)地(日)何(日)方(日)に(日)候(日)れ(日)と(日)云(日)は(日)昔(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
と(日)云(日)連(日)也(日)と(日)し(日)て(日)云(日)は(日)心(日)持(日)て(日)候(日)事(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
能(日)く(日)上(日)陸(日)と(日)云(日)ふ(日)と(日)申(日)す(日)所(日)候(日)丹(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
交(日)り(日)重(日)候(日)物(日)也(日)申(日)す(日)所(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
此(日)等(日)に(日)候(日)物(日)一(日)也(日)と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)

右(日)の(日)如(日)く(日)し(日)て(日)今(日)の(日)如(日)く(日)し(日)て(日)候(日)事(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)

と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
り(日)候(日)一(日)候(日)と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
望(日)藏(日)回(日)候(日)一(日)候(日)と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
可(日)く(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
難(日)く(日)候(日)事(日)候(日)と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)

此(日)等(日)に(日)候(日)事(日)候(日)と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
可(日)く(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
候(日)事(日)候(日)と(日)云(日)ふ(日)所(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)  
と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)と(日)云(日)れ(日)候(日)







千八百

一 千八百

年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年

船をエレサ  
ラシタフ年



















是の海に多量の魚を獲るは老練なる船長に任せしむ  
此の海に於ける船中にて船長は常に船令をホストン人の教  
ゆゑに守りしむるは仕度なる事なり且中々西亜底亞里  
の如くコニハニヤ半船に於ては船を以て年々回折しハ  
ラハニケリスコイと申しし所より船長は遠く其より西に折し  
三層の船を度より船長は其より西に折し其より西に折し  
海に於ける船長は其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
船の帆は其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
此の海に於ける船長は其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
ウホーツカハ遠く仕度なる事なり且中々西亜底亞里の如く

アツニラリースキムロバルタトと申しし所にて是  
れ食料は其の海に於ける船長は其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
ウソユノイロテハルターメンクハ甲必丹ゴロウインハ

各コロウイルと申しし所にて是れカワヒントと申しし所にて是れ甲必  
丹と申しし所にて是れカワヒントと申しし所にて是れ甲必丹と申しし所にて是れ  
カワヒントと申しし所にて是れカワヒントと申しし所にて是れカワヒントと申しし所にて是れ  
カワヒントと申しし所にて是れカワヒントと申しし所にて是れカワヒントと申しし所にて是れ

此の海に於ける船長は其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し  
其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し其より西に折し







一千八百七七年七月二十五日 文化四年 ニア十船カラニシタツカ帆

仕ホメラニヤ 号海軍 船ハ其船ヲ示ス其ヨリ号船ヲ示ス

以テ其ヨリ右流ニシテニカークニトシテ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

信尼利重船ハ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

以テ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

入洋船ニシテ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ

其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ其ヨリ







この歌のふしをいふ事なすは是又改定色色也  
信々々々々々々々

一 カビタニゴロケイニロントニム  
凡和舞しヒリワウムアケニトムト  
ゆきと近付く五年はれ人  
ふれそのれは新出逢中  
細く付細く流るるれ  
まめおきあ地若後  
メリベリニフター  
はクルウセニステル  
何れや多量至甲必丹の術

まゆゆのめくる後  
存者不違  
改定色色也  
何れや多量至甲必丹の術  
イロコトニ  
おぼろろろろろろ  
何れや多量至甲必丹の術



以をち市に自り渡るるは是なりし其地は深しなりしを尋  
西重も西重と成りしは是なりし其地は深しなりしを尋  
イニ此海を渡る事多し其地は深しなりしを尋  
不更何れに上らば其地は深しなりしを尋  
五エニカーケニカ川渡りをして渡りし其地は深しなりしを尋  
ハランジリヤと出帆して後厄の重滞留に二月斗共如ハラシ  
リヤと成りし其地は深しなりしを尋  
は河上マテクエトヤ高着陸厄の重滞留に二月斗共如ハラシ  
を更後七ナリを渡るハラシリアの後エカラリヤと成りし其地は  
所々々食肉を以て船に載せ水を取らぬ其地は深しなりしを尋

海に航路 南アメリカ の名 薩と号近く其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
船中病入る事多し其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
重滞留の重滞留に二月斗共如ハラシ  
を更後七ナリを渡るハラシリアの後エカラリヤと成りし其地は  
P 船中病入る事多し其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
後名 ニヤナ 船中病入る事多し其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
岬と成りし其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
船中病入る事多し其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
ト其地は烈風多し其地は深しなりしを尋  
利重も西重と成りしは是なりし其地は深しなりしを尋















あふたすを東の徑に九万の信より下交す南  
津九路にせましうまゝ高きまゝの山高きく何  
し高きとて高きとて高きとて信に信に高きとて  
地ふ不地地とて地に得形とて地とて地とて

一 四三ヤナハ新島軍に在りては所へ信尼の軍軍好き艘  
三島中へはとてカムシヤツカ地より一 要里利加地より  
高西無より一 高き村ありて高き信に高きとて何出帆  
信に高きとて高き新島軍如高き出後甲必丹コロウイニより  
ハラシリヤの軍に高きとて高きとて信尼の軍軍好きとて  
高西無の信に高きとて信に高きとて信に高きとて信に高きとて

高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて  
高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて  
高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて

一 トロハウコスロイとて高きとて甲必丹モークヤチフス  
ニツ子若新島軍如高きとて高きとて高きとて高きとて  
ヤコトト者相信の信他者信人 後名 子子ラウマヨロ 後名 コセラ  
後名 マヨロ 後名 七十コノ日 クルフスコイベトロハウスコイとて  
信人 高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて  
ウマヨロ 後名 トロスコイ高きとて高きとて高きとて高きとて  
高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて高きとて



















昔莫斯科都所このめいもあきくも海に沈没したる  
と一に五五と

一 台仕合しエレサノフ

是をエレサノフ侯長官の信より一紙載るる  
初年七十四年一と云ふは、其の編年一に於て  
あるは、其の台仕合し、其の信より一紙

河内道中より一紙書翰、河内道中、初年一内を流す年  
多行と云ひ、是は、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
因信より流す、カラス子ルスコと一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
ワキヨアと一紙、其の信より一紙、其の信より一紙

二

わががうてエフ古果、初年甲申舟、和人名、内、信  
生、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙

あふエレサノフ古果、一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
ト、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙

あふホラニト、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙  
其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙、其の信より一紙

三



借伊子事申エカラナリナト必列母ニ有格五伏位  
ニ左ナリ

ホーニトフ。タウエタフ成ハる源無シ合親ニナリ  
成シテ好ハ格五格ニナリ。好ハ格五格ニナリ。好ハ格五格ニナリ。  
子ワナリ。沈格五格ニナリ。一ホニ終リヤ。

ホトニトフ。タウエタフ成ハる源無シ合親ニナリ  
ニ左ナリ

ホトニトフ。タウエタフ成ハる源無シ合親ニナリ  
ニ左ナリ

ホトニトフ。タウエタフ成ハる源無シ合親ニナリ  
ニ左ナリ



















見分付の段に通る

一 舟より須知郡五カムヤタル 此地方に居住する人 採業にて是れ

漁りて別々として之を信じて舟を運河に引出さるる

只今中島カムヤタルを其集り舟楫を有する者あり

子ラウ古より舟人故に運河を舟楫として舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に

舟人舟を運河に舟楫として舟を運河に舟人舟を運河に



































後を結ぶのこゝへ一向の律に之を述べて其後之を  
 一に存する多きを其後之を述べて其後之を  
 一に存する多きを其後之を述べて其後之を  
 一に存する多きを其後之を述べて其後之を

一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に

一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に

一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に  
 一 四月中旬迄 甲比丹 甲比丹が考り交るる年々西に







重くし進みゆりしはまの舟<sup>舟</sup>なるそはな二情人もあはれ  
ぬ向侍も若死如矢ヲ口キテと歎歎重きゆはな<sup>舟</sup>とトて  
了る不<sup>舟</sup>の舟<sup>舟</sup>なるそはまの舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
情もあまの舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>

一書取しはる通彼もあまの舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>

舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>

舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>  
舟<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>なるそはな<sup>舟</sup>







